

Shio
塩尻



授業や部活動中学生が体験

都市大塩尻高で学習会

東京都市大学 塩尻高校
(河西靖男校長)は13日、中学生を対象にした

体験学習会を開いた。約170人が模擬授業を受けたり、部活動を見学したりして高校生活への期待感を高めた。

模擬授業は保育、理科、社会のほか、工業などで自動車のエンジンの分解や組み立て、体験など8種類が用意された。理科の「光」に関する実験教室では、東京都市大学工学部の学生や教員が講師

大学生に教わりながら科学実験に取り組む中学生

小川准教授は、身近な家庭での電気利用から世界のエネルギー消費量までを説明した上で、再利用可能な原子力発電の仕組みを解説した。燃料となるウランは世界の埋蔵量から約100年持つと

間も出ていた。 小川准教授は、文系の出身ながら燃料メーカーなどの勤務を経て、日本原子力学会広報情報委員長も務める。大学では女性研究者の支援に取り組み、小川准教授は生徒た

ちに「科学技術は男性の牙城」というイメージがあるが、世界では女性も活躍する。科学技術立国の

日本のために頑張つて」と呼び掛けた。

（2010年）11月14日（日）（26）

再利用可能な原子力学

都市大塩尻高で講座

東京都市大学塙尻高校は12日、進学を希望する普通科の1、2年生78人を対象に「原子力講座」を開いた。東京都市大学准教授で、原子力アドバイザーの小川順子さん(58)を講師に招き、生言われるが、リサイクルで「60～100倍に生かせる」とし、国産資源の確保にも言及した。生徒は重さ10kgの円柱形ウラン燃料の実物大模型を手に取り、興味深そうに見入った。生徒からは「使

活と密着したエネルギー問題について学んだ。小川准教授は、身近な用済み燃料のうち何%が再利用できるか」との質問も出ていた。

家庭での電気利用から世界のエネルギー消費量までを説明した上で、再利用可能な原子力発電の仕組みを解説した。燃料となるウランは世界の埋蔵量から約100年持つと、小川准教授は、文系の出身ながら燃料メーカーなどの勤務を経て、日本原子力学会広報情報委員長も務める。大学では女性研究者の支援に取り組み、小川准教授は生徒た

光を観察した。一見白に見える光もさまざまな色で構成されていて、光のエネルギーが最先端科学として医療分野などにも応用されていることを理生の説明は分かりやすかつた。高校に入つたらいろいろな実験をしてみたらい」と話していた。

を務め、皆で簡単な分光器を作つて蛍光灯などの

解した。

回目で、12月4日にも開
かれる。（瀬川智子）



小川准教授から原子力の話を聞く生徒たち